

## さくらのひと、みっけ！

### マルシェで地域をつなぐ 「やらない勇気」で無理なく続ける



たつ み じゅんゆう  
**辰己 順祐** さん

大字巻野内にある九田寺<sup>きゅうでんじ</sup>で住職を務める辰己順祐さんは、手作り雑貨を扱う店を集めた市場「まきむくマルシェ」を、実行委員として令和3年から定期的に開催しています。

辰己さんが京都府で見た手作り市をきっかけに、近所の友人家族と始めたマルシェ。市内にも雑貨のハンドメイドや楽器の演奏などを楽しむ人が多くいることを知り、実行委員会を立ち上げ、地元でも同じように創作活動の発表の場になるイベントができなしかと考えました。

大切にしていることは、マルシェを長く続けていくために「無理せずやらない勇気をもつこと」。出店者・来場者・主催者それぞれの思いのバランスを取りながら、誰にも負担がかからないようにと考え、運営を続けています。今では他の地域で開催されるイベントへの出展依頼を受け店舗を派遣するなど、マルシェによるつながりは広がっています。

「地域の人や来場者・出店者の皆さんと良い関係を築いて、ここまで続けられている。目標や理想のようなものはあえて決めずに、長くマルシェを続けていけたら」と話す辰己さん。これからも誰もが無理なく楽しめる「まきむくマルシェ」を目指していきます。

## 共に生きる

### ～ 心の共鳴箱 ～

これは、毎日学校のできごとを教えてくれる孫と、その話を聞くのが楽しみなおばあさんの、ある日の会話です（以下、孫：ま、おばあさん：お）。

ま：学校で、A君が泣きやってん。

お：あの元気なA君が。それは珍しいなあ。どうしたん。

ま：授業で、インターネットを使って勉強したら児童虐待の記事を見かけて、虐待されて亡くなった女の子のことを「かわいそうや。許されへん」って言うて泣いてやって。

A君には生まれたばかりの妹がおり、とても可愛がっているそうです。おそらくA君は、妹と亡くなった女の子が重なったのでしょう。おばあさ

んは、A君が人の痛みや優しさがわかる豊かな心を持っているんだなと嬉しく思い、孫に「A君ってやんちゃやけど、優しい子やなあ」と答えました。

人間は、他の動物にはない「心の共鳴箱」を持っています。震災や事件が起きた時、どんなに遠い地のできごとでも、その情報を目や耳で受け心で感じ、被害者や被害家族に思いをはせ、自分の経験と照らし合わせ、自分の周りの大切な人たちの事を気遣います。そして、不幸なできごとを教訓にし、なぜそうなったかを考え、二度と不幸なできごとが起こらないよう行動に移すのです。私たち大人も、A君の心と同じように美しい音色を奏でる「心の共鳴箱」を持ち続けたいものです。